Ｙさんの案、第二次指導第２時の「六とく」について書いてみます。

最初に、光村版と東書版では、出典が違うのでしょう。まず、挿絵画家が違います。次に題名が違います。光村は「ガン」とカタカナ書きです。光村には前書がついています。大きな区画の数字が光村は算用数字で、漢字の遣い方も違います。さらに、段落のつけ方が違っています。これらは、教科書の編集者の意向も入っているのでしょう。

ですから、子どものことを考えると、東書の教科書をもとに案を考えるのがよいと思います。

さて、視写部分を書き出してみます。

①
②
③
④

大造じいさんは、ぐっと、
じゅうをかたに当てて、残雪を
ねらいました。」が、何と思ったか、
また、じゅうを下ろしてしまい
ました。

残雪の目には、人間も
はやぶさもありませんでした。
ただ救わねばならぬ、仲間の
すがたがあるだけでした。」
いきなり、敵にぶつかって
いきました。そして、あの
大きな羽で、力いっぱい相手を
なぐりつけました。

六とく

○　語義・区分

ぐっと　が　目には…　ただ　仲間…　敵＝相手　あの大きな羽

大造じいさんと残雪の段落をそれぞれ２区分

前＝「が」で２区分：銃の位置　後＝「いきなり」で２区分：目と動き

◎　心

①　４つに区分しましたが、この場面を映画にしたら絵にならないのは、何番でしょうか。

②　③番です。それを具体的に表しているのは、残雪のどんな行動でしょうか。

③　「ぶつかる」と「なぐる」です。（救うから→）

④　ところで、大造じいさんは、残雪のその行動に気づいていました。それが、どの言葉に出ていますか。（「何と思ったか」に→）

⑤　それは、猟師の名人の勘でしょうか。残雪が助けにきたのは、おとりに使った雁ですからね。これが、残雪に「一泡吹かせてやる」気持ちを変化させる始まりになります。さらに、尊敬の念が生まれる所を、次回は勉強しましょう。　　（短時間↓）

⑥　ここは、緊張の場面です。その効果が表れているのはどの言葉かな。

（「が、」「もありませんでした。…あるだけでした。の対句でリズムを」）

私は、上のように考えました。そのためには、「二とく」で扱う必要のある事柄があります。次の３点は、押さえておきたいですね。

１　大造じいさんのその日の意気込み

２　「はやぶさ」の特徴

３　隼が現れた時の情景（略画：隼・雁・おとりの雁・小屋・じいさん）

更に、第二次指導第１時は、どこをやるかです。二の最後の場面（「」の部分と最後の「ううん」を含んだ文）を私は考えました。

第３時は、三の最後の段落を考えました。

すると、第一次指導も、区画数と何を書かせるかが見えて来そうです。ここは、１８日にもっていきます。

前指導部長の安達孝之介先生の教壇記録（光村）がありますので、それも持っていきます。兵庫の会の筆録は、作ってありません。

今日の所は、ここまでにします。